

第1回 里地里山保全・活用検討会議資料

里地里山保全・活用検討会議の 目的について

環境省 自然環境局
自然環境計画課
平成20年11月12日

里地里山保全・活用検討会議について

(1) 位置づけ

里地里山に造詣の深い有識者で構成し、国内の里地里山での自律的な保全再生を促進し、人と自然の関係の再構築を図るために必要な検討を行うもの。

(2) 役割

下記について検討を行う。

生物多様性のほか、多様な観点から将来に引き継ぎたい重要里地里山を検討・選定。

里地里山の保全再生の促進のため、生物多様性の視点に立った自然資源の管理・利活用方策の検討。

(3) 構成

里地里山保全・活用検討会議は10人の有識者で構成。

関係各省(文化庁、農林水産省農村振興局、林野庁、国土交通省都市・地域整備局)がアドバイザーとして、参加。

全国里地里山会議委員(敬称略、五十音順)

あん・まくどなるど

国際連合大学高等研究所

いしかわ・かなざわオペレーティングユニット所長

石井 実

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授

岩槻 邦男

兵庫県立人と自然の博物館館長

進 士 五十八

東京農業大学地域環境科学部教授

竹田 純一

里地ネットワーク事務局長

中越 信和

広島大学大学院国際協力研究科教授

広田 純一

岩手大学農学部教授

宮林 茂幸

東京農業大学地域環境科学部教授

森本 幸裕

京都大学大学院地球環境学堂教授

鷲谷 いづみ

東京大学大学院農学生命科学研究科教授

これまでの経緯

かつての「里地里山」

生物多様性の保全とその恵みの利用が調和

- ・長年にわたる人と自然の相互作用、文化的な営みを通じて持続可能な自然資源利用が実現
- ・多様な生物の存続に不可欠な生息環境を提供



現在の「里地里山」

社会経済状況の変化により人と自然のバランスが崩壊

- ・特有の生態系が荒廃、生物多様性の著しい劣化
- ・国土保全機能の低下、深刻な鳥獣害の一因
- ・農地での害虫の抑制、花粉媒介などの働きも低下
- ・地域固有の文化や景観の喪失

今後の方向性

- ・我が国全体の生物多様性の存続を図る上で、里地里山の保全再生の成否が極めて重要な要素
- ・生物多様性の恵みを将来にわたって享受できる自然共生社会を実現する上で、奥山と都市の間に位置し国土の4割を占める里地里山における人と自然の関係の再構築が大きな課題
- ・森林、草地、農地、水辺地など多様な環境の組み合わせやつながりを考慮し、これらを一体的な空間として捉えて、各省連携で総合的に取組を推進
- ・取組への多様な主体の参加は、都市住民等が里地里山の自然環境に触れる機会を創出し、癒し、安らぎを与える効果が期待
- ・地域経済の活性化の観点もふまえて、里地里山の恵みを楽しむ圏域全体として里地里山を支える仕組みの構築を検討。
- ・里地里山の管理から生じる木材や草本資源をエネルギー資源として活用することにより、地球温暖化対策にも貢献

対策(この会議で検討)

1 各地域の生物多様性を将来的に維持していくうえで重要な里地里山を選定

絶滅危惧種など生物多様性の保全やその他の観点から重要な里地里山の選定と、その保全・再生のための取組強化。

重要な里地里山での取組を分析・整理し、地域特性に応じた課題解決の処方箋等を提供することにより他の地域での取組を促進

2 生物多様性の視点に立った自然資源の管理・利活用方策等の検討・提示

森林・農地など多様な自然環境を一体的に捉えて、生物多様性の観点から、保全・利活用する手法を策定
地元住民だけでなく、都市住民、民間企業など多様な主体が参加し、里地里山の恵みを受ける圏域全体として保全・再生を進めるための仕組みを検討。